

平成 29 年度 つくば国際大学東風高等学校自己評価表

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価	次年度への主な課題	
教務部	1 日々の確実な業務遂行により，学校の教育業務を円滑に進める。	○各種の実施計画原案を1ヶ月前に作成する。 ○関係部署との連絡調整を徹底する。	B	A	<p>1 関係部署との調整作業を更に早めに行う。</p> <p>3 カリキュラム改訂後の運営を多角的に考察して円滑に行えるようにする。</p> <p>シラバスの適切な評価運用がなされているかを再評価する。</p> <p>6 消耗備品の適正数の見直しを行い，経費削減に努める。</p>
	2 担当係以外にも業務を理解し相互に補完する体制を作り，運用する。	○係ごとに正副の担当者を配置し，相互に業務にあたる。 ○各係とも前年度の業務内容の引き継ぎを確実にして，運営面での抜けをなくす。	A		
	3 教員の授業力向上を図る（教育計画） ・授業計画の作成 ・研究授業に実施	○カリキュラムの適正な実施に常に注視し，履行できるようにする。 ○シラバスの作成を授業単位で作成するように依頼し，授業計画と評価規準を明確する。計画に沿って実施されているかを長期休業前に確認し，軌道修正と注意喚起をする。 ○研究公開授業を教員ごとに年1回以上実施する。公開授業強化週間を設定し，順次できるようにし，公開授業後に観察教員の意見を集約して周知する。	B		

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価	次年度への主な課題
	4 授業の振替の徹底 (時間割) ・自習時間を極力なくすようにする。	○授業担当者間での変更を原則とするが、振替案を提示する。 ○授業の抜けを防ぐ。自習時間をなくし、授業振替達成率100%を目指す。(授業時間の確保) ○確認テスト監督割り業務を輪番制にして、チェック体制を強化する。	B	
	5 教科書・副教材の集約と事務処理の徹底 (教科書)	○次年度使用教科書の取りまとめと確認作業を正確に行う。 ○教科書販売の企画や運営を円滑に行う。	A	
	6 正確な数値と生徒異動の管理 (文書統計)	○月別異動報告の把握と報告をする。 ○会議録など文書帳簿類の管理を徹底する。 ○確認テスト後の成績個表を早期発行し、生徒の学習意欲を向上させる。	A	
	7 教職員使用の消耗備品適正数の把握と管理 (備品)	○教室の学習環境を整え、授業などの学習活動がスムーズに行えるようにする。 ○適正な数の把握により、消耗品の費用を抑える。	B	

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価	次年度への主な課題
	8 図書館担当の事務職員との連絡調整の徹底 (図書)	○図書室を開室し、学習する場を提供する。	A	
	9 情報集約と確実な配車 (バス配車)	○学校行事などの特別編成時に抜けがないようにする。	A	

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価		次年度への主な課題
進路指導部	1 勤労観や職業観を持たせ、将来に対して、夢や希望が持てるようにする。	1 キャリアガイダンス，進路講演会，進路別見学会，病院体験を実施し，進路を考えるきっかけになるものを企画する。	A	B	進路決定のきっかけとなる，校内・校外のガイダンス・病院体験などは流れが出来た。しかし，1，2年生に関してはLHR内での進路指導の時間の確保が不足してしまった。
	2 到達度・理解度を確認させ，進路達成に結び付ける。	2 本校の状況に合わせ，大きく3つの分野（大学進学・就職・医療看護）の模擬試験を実施することや，その対策（各教科へ模擬試験の過去問の提供）にも力を入れる。	A		
	3 進路指導に関する知識や意識面でのレベルアップを図る。	3 進学実績の改善を図り，進路ガイダンスや進路情報誌の配付，大学案内の請求，進路だよりの発行，大学訪問，指定校の確保，受験対策問題集の購入（赤本など），研修会への参加を行う。 進路指導部の教員だけにこだわらず，研修会や大学説明会の紹介をする。	B		

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価		次年度への主な課題
生徒指導部	1 基本的な生活習慣の確立	挨拶や制服の着こなしなどHR，授業を含め，学校生活全般において適正な指導が維持できるように啓発や協力できるように務め，「生徒心得」の携行と活用を促す。	B	B	<p>一部の生徒が制服の着こなしが乱れているので，「生徒心得」の活用と校内巡視ともに，更に指導していかなければならない。</p> <p>自転車通学者の中で，ステッカーを貼っていない者がいたので指導したが，新1年生においては，生徒指導部が直接ステッカーを貼る指導をしていく。また，交通事故は少なかったが，自転車乗車中のイヤホン等違反者が見受けられたので，引き続き校外指導に力を入れていく。</p> <p>SNSのトラブルは毎年あるのインターネットの危険性の周知とともに情報モラルの向上を目指していく。</p> <p>行事における活動が，一部の生徒に負担がかかっているため，多くの生徒の参加が難しい状況ではあるが，解決していく方向を見出す。</p>
	2 交通安全教育の推進	被害者にも加害者にもならないように資料提供や啓発に努める。本校独自の校外指導も計画し，校外での実態把握する。自転車通学者には，自転車整備点検と日常点検を指導していく。	B		
	3 SNSによるトラブルの回避	情報安全教育の一環として講話を実施する。日常的にはスマホなどの情報伝達手段について正しい取り扱い方を身につけさせるとともに，安全利用について資料提供や啓発を行い指導する。	B		
	4 学校行事の活性化	生徒が主体となり，企画・運営する行事を増やす。 役員以外の生徒が活躍する場所・場面をつくる。	B		

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価		次年度への主な課題
渉外部	1 保護者の会の円滑な運営を図る。	○保護者の会との連絡を密にし、より連携できるように、その調整役としての役割を果たしていく。 ○3つの委員会（広報委員会・生涯学習委員会・生徒支援委員会）の担当者を決め、役割分担を明確にした上で協力し合う。	A	B	<p>今年度は委員会の担当を決めたことでスムーズに業務をこなすことができた。</p> <p>石岡祭礼の態度決定を遅れてしまったことにより、保護者にご迷惑をお掛けした。対外的なことは特に早めに準備するように心がけたい。</p>
	2 対外的なイベントに協力する。	○「かすみがうら祭」と、「生涯学習フェア」での、ボランティア協力を充実させていく。	B		
	3 対外的な諸活動を滞りなく行う。	○式典のメッセージカードの発送、お礼状の発送、年賀状等の準備を早めに滞りなく行う。	B		

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価		次年度への主な課題
保健厚生部	1 環境美化 学習環境の整備	清掃活動の徹底 清掃用具の充実化 清掃用具を把握する 東風祭の環境美化の徹底 コミティーの活用 東風祭でコミティーによる環境整備および衛生指導を徹底する	B	A	トイレの改修工事が夏休みに終わり、コミティーによる清掃状況の放課後巡回が後期から行うことができた。このまま1年を通して計画したい。 第1学年の救急救命講習を消防署と連携して滞りなくできたが、一クラスの人数が増えてきたのでよりよく講習が受けられるように工夫したい。時期としては11月16日～20日に第2学年が修学旅行を行っている時に実施した。次年度も第2学年の修学旅行時に行いたい。
	2 保健 保健衛生を充実	救急救命講習の実施 1学年の救急救命講習を消防署と連携し実施する 保健行儀を滞りなく実施する。	A		

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価		次年度への主な課題
入試広報部	1 入学者を確保する。 特別進学，進学，医療進学の各コースで入学者を増やし，5クラス編成を目指す。	<p>具体的目標の各項目を達成させる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・受験者の確保 ・説明会への動員数の増加 ・個別見学・相談の充実 ・中学校・学習塾との信頼関係の形成 ・HPの充実、情報発信の強化 ・制度の確立と分担による効率化 	B	B	<p>1 今年度は入学者 117 名の前年比 1 名の微増にとどまったが，4 年連続増加傾向にあり，校内の活性化に貢献できた。一方で不登校，特別なニーズを持つ生徒への個別対応が課題である。特に医療・看護進学コース，さらなる進学コースの入学者を増やすことが求められる。</p> <p>2 推薦入試の受験生徒の確保</p> <p>3 生徒主体の説明会が評価されており，さらなる充実を図るとともに，中学校・学習塾への告知が遅延気味で改善を要する。</p>
	1 受験者を確保する。 推 薦 ・一般単願・一般併願の各入試区分で増員を図る。	<ul style="list-style-type: none"> ・中学生・保護者一人ひとりに働きかけ，本校の魅力を伝える。 ・推薦・単願優遇制度の企画。 ・カリキュラム変更をアピールする。 ・奨学生制度の拡大をアピールする。 	A		
	3 説明会への参加者を確保する。 学校説明会 3 回，入試説明会 2 回 入試対策学習会 3 回における来校者数の増加を目指す。	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒主体による親しみのある説明会の企画 ・さわやかなポスター、学校案内によるイメージ戦略 ・早期の告知、受付開始 ・広告媒体の活用 ・女子中学生にアピールする。 	A		

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価	次年度への主な課題
	4 個別見学・相談の充実を図る。	<ul style="list-style-type: none"> ・土曜日の個別見学・相談会の実施 ・個性あるブースの設置 ・補助生徒参加によるアピール強化 	A	<p>4 個別見学・相談会の実施にあたり、次年度から新カリキュラム実施により、土曜日の授業日が年間10回程度、希望制となるため、大幅な見直しが求められる。</p> <p>5 学習塾訪問や告知が不十分であった。次年度は担当者を明確にし、実施する。</p> <p>6 告知連絡が不十分であった。次年度には担当者を明確にし、定期的情報発信の強化を図る。</p> <p>7 入試広報部内での仕事の格差が生じ、外勤・内勤の分担が機能しなかった。各業務内容ごとに分担し、取り組む体制づくりを進め、組織化を図る。</p>
	5 中学校・学習塾との信頼関係を形成する。	<ul style="list-style-type: none"> ・一斉訪問の実施（年間3回） ・中学校対象説明会の実施 ・学習塾対象説明会の実施 	B	
	6 HPの充実、情報発信の強化を図る。	<ul style="list-style-type: none"> ・入試広報部専用ページの開設 ・担当者を輪番制として、定期的更新で情報発信の強化 	B	
	7 制度の確立と分担による効率化	<ul style="list-style-type: none"> ・企画・運営の固定化 ・外勤・内勤業務の振り分け実施 	B	

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価		次年度への主な課題
第1学年	1 秩序を持った規律ある学年 ・途中退学者ゼロ ・謹慎、停学に該当する問題行動を10件以内 ・不登校生徒をゼロにする	(1) 面接指導の徹底 ・朝、休み時間、昼休み、放課後など、時間の有効活用 (2) 校舎内の巡回 (3) 保護者との密な情報交換	B	B	<ul style="list-style-type: none"> ・担任と学年部長の連携が不可欠。 ・学年会を定期的実施する。 ・別室授業の取り決め・出欠席について ・学年会を利用して進路に関する情報提供を多くする。 ・自発的に勉強の質問ができるような環境づくりが必要。 ・教員が部活動指導に積極的に取り組むべき。
	2 高い志を持って学習に取り組む ・高校1年次で明確な進路希望先を5割以上確定させる ・成績優秀者10名以上 ・検定試験3級以上取得者5名以上	(1) 面接指導の徹底 ・朝、休み時間、昼休み、放課後など、時間の有効活用 (2) 道徳、LHRで進路につながる情報提供 (3) アカデミーの充実 (4) 検定試験対策の実施	A		
	3 部活動の活性化 ・第1学年で部活動・同好会の加入率を70%以上にする	(1) 部活動の大切さを促す。 (2) ひたむきに取り組める事を見つけさせる	B		

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価		次年度への主な課題
第2学年	1 基本的な生活習慣の定着と規範意識のさらなる向上	授業遅刻に対する指導を強化する。身だしなみの指導を、朝の SHR や授業開始時に服装をチェックし、粘り強く指導していく。合わせて、上級生としての振る舞いについても指導していく。	B	B	授業遅刻や身だしなみについて、少々ゆるんだ時期があったが、第5クールにはかなり改善できた。しかし、細かいところでまだ徹底できていない部分があるので次年度も継続して指導していく。 多くの生徒が進路意識が高くなってきており、学校見学やオープンキャンパスに参加している。引き続き進路に関する情報収集と目標達成につながる学習習慣の定着に努めさせていく。また、LHR や個別面談を有効に活用し、進路や学習に関しての、助言や指導に役立てていく。
	2 進路意識の向上と、進路目標の確立	LHR を通して進路指導をするとともに、学校外の進路説明会等に参加させ、他校の生徒の様子なども観察させる。 将来、就きたい職業や学びたい事について考えさせ、現時点での進路目標を立てさせる。	A		
	3 入試に対応できる学力の養成	習熟度ごとに、授業を展開し、個に応じた指導をする。入学試験や就職試験の問題に触れさせることで、次年度の受験勉強につながるよう、学習意欲を向上させる。	B		

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価	次年度への主な課題
第3学年	1 個々の進路目標の達成	1 クールごとに進路希望を確認し、二者面談を実施する。 2 オープンキャンパス等に積極的に参加させる。 3 進学説明会等を活用し、主体的に参加させる。 4 面接や小論文の指導においては、個別対応を十分に行う。	B	B AOや推薦入試の指導においては、十分に個別指導をすることができたが、一般入試の受験指導においては、十分に特編授業を活かしていくことができなかった。今後の特編授業の進め方が課題である。 文化祭など学校行事の中心となって活躍し、他の模範となることができた。部活動や東風クラブにおいても、様々な場面でリーダーシップを発揮させることができ、良い締めくくりをさせることができた。
	2 最上級生として、他の模範となる生徒の育成 部活動や学校行事等において、中心となって学校を盛り上げ、高校生活の良い締めくくりをさせること	1 HR活動や道徳の時間などを通して、常に最上級生としての自覚を促すように指導する。 2 部活動や東風クラブの中心として様々な場面でリーダーシップを発揮できるように指導し、自信をつけさせるような配慮をする。	A	

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価	次年度への主な課題
国語科	<p>1 進路実現のための実力養成</p> <ul style="list-style-type: none"> ・語彙力 ・評論読解力・小説読解力 ・古文読解力・漢文読解力 ・表現力 	<ul style="list-style-type: none"> ○入試頻出の漢字テキストを使用し、漢字テスト・追試等を実施する。また、古文単語テストも同様に実施する。 ○クール毎に、評論と小説を交互に一つずつ扱い、更に演習問題を行う。 ○古文漢文は、基礎的事項の習得に努めさせ、更に問題演習を積ませる。 ○1・2年の小論文対策は、夏休みから、第3・4クールにかけて実施する。 	B	<p>漢字小テストや古文小テストの定例化はできたが、追試験を徹底させることが難しく、今後の課題である。</p> <p>また、読解力養成については、演習が不足しがちであり、今後の課題である。</p> <p>基礎力養成に力を入れ、検定試験の受験者や、合格者を増やすことができた。</p>
	<p>2 社会生活を営むための基礎力養成</p> <ul style="list-style-type: none"> ・常用漢字を基本とする語彙力 ・一般教養としての国語基礎 	<ul style="list-style-type: none"> ○漢字テキスト（常用漢字の全て）に基づき、漢字テストの定例化とともに知識の定着を図る。 ○漢字検定や日本語検定の受検を奨励する。（過去問等を使用し、意識を高める。） ○文学史・故事成語・四字熟語・ことわざ等の基礎知識は、折に触れて扱っていく。 	A	

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価		次年度への主な課題
地歴公民	1 生徒に作業をさせる授業を多く行う。	地球儀・白地図ソフト・黒板白地図シート・プロジェクターを活用する。黒板白地図シートは生徒自ら解答解説をさせる。また、視聴覚室での授業を行いたい。 オリジナリティのあるプリント作成を心がける。	A	B	視覚的な教材資料の使用や、グループ学習も定着してきた。が、グループ学習以外の方法での、生徒主体の授業を工夫していきたい。 ネットワークやDVDなどの教材の使用の頻度を上げ、さらに生徒に資料の提供をもっと多くしていきたい。
	2 生徒の実力に合わせて授業・テストを行う。	1年生…全クラス同じテストで実力をみる。2、3年生は前年度の成績、進学を意識したテスト内容にする。現況の2年生の成績の格差をなくすためにも、小テストの頻度をあげる。	B		

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価		次年度への主な課題
数学科	1 基礎学力の定着	習熟度別授業や個に応じた指導を行う。理解が不十分な生徒へは補習等を実施し、理解度の向上を図る。必要に応じて、小中学校の内容に戻り、放課後や長期休業中に個別指導を行う。	A	A	概ね、目標を達成することができた。 定期的に宿題を出し提出・点検を繰り返すことで、家庭での学習時間を増やすことはできた。また、少数ではあるが自主的に難問に取り組むなど、学習意欲の向上につながった。次年度は、そのような生徒がさらに増えるよう継続して指導していく。 今年度は、教科書が思うように進まず、小テストの回数が少なくなってしまった。次年度から55分授業となるので、うまく活用して行きたい。
	2 継続的な学習習慣の育成	ノートの点検を随時行う。また、定期的に宿題を課すとともに、小テストを行い、学習への意欲を喚起させる。小テストの結果に基づき、再テストを繰り返す。	B		
	3 進路目標に応じた受験指導	演習授業や放課後アカデミー、個別指導などを利用して、生徒の進路目標に応じた数学の学力を育成する。大学入試問題に取り組みせることで、現在の学習内容をどう活用すればよいのか学ばせる。	A		

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価		次年度への主な課題
理科	1 思考力・表現力を高める。人前で発表するのが苦手な生徒が多いので、まずは書くことにより、表現力を身につけさせたい。	1 演示実験、グループ学習を通じ、レポート作成をさせる。学び合う機会を増やし、新しい考えに気付いたり、自分の考えを再確認したりしながら、自分の意見を他者に分かりやすく伝えられるようにしたい。	B	B	<p>授業中に小テストなど、学力の確認をする事が出来なかった。</p> <p>生物では実験・観察をする機会を増やすことが興味関心を高めることはいくらかできたと思われる。</p> <p>学年後半で、パワーポイントなどを使った授業が好評だったことから、30年度は55分授業なので、実験、プレゼンテーションなどを充実させた授業展開をしたい。</p>
	2 学習意欲を高める。 知的な好奇心や探求心を持ち、自然観察や目的意識を持ち観察・実験を行う。	2. 教科書、教科書傍用問題集を主に使い、予習復習がしやすいようにする。 また、典型的な実験のレポートを作成する。	A		
	3 学習習慣を身につける。 予習・復習をさせる。	3 小テストの回数を増やし、学力の把握。評価する機会を増やし、意欲を高めるきっかけにする。 確認テスト対策として教科書傍用問題集を活用させ、自信を持たせる。	B		

	<p>4 進路希望に応じた指導をする。 国公立・有名私大志望者の成績向上 センター試験得点目標 8割 (現状は少数(5名)ではあるが、3 年の夏休み明けには、ある程度の自信 をつけさせたい。)</p>	<p>成績上位生徒と下位生徒に対応する ために、授業は教科書中心に授業を展 開し、上位者にはプリントなどの宿題 を出すなど、授業以外で対応する。 下位の生徒も受験に向かわせるため に、実験・観察を取り入れ推薦・AO入 試対策を企画したい。</p>	B		<p>物理において、高得点を取った生徒が 出た。しかし、全体的に放課後のゼミな どの参加者が低調だった。 今後は、特色のある放課後ゼミを設定 し、積極的に取り組むようにしたい。</p>
--	---	---	---	--	--

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価		次年度への主な課題
保健体育	1 興味・関心を引き出せる指導の工夫	生徒の実態に応じた簡易ゲームなどを取り入れ、生徒の競技への関心を高めさせたい。	B	B	個人差が激しく同じ練習でも課題を工夫しながら取り組むことができた。しかし生徒の関心を高める工夫や、授業に取り組む姿勢や見学者を減らす努力をしていきたい。
	2 能力差を考えた指導の工夫	基礎ドリルなどを取り入れながら応用ができる生徒へはレベルの高いドリルを与える。 能力を考えながら、ゲームを行うチーム編成を考えさせる。	A		
	3. 授業中の服装の徹底	授業前に確認を必ず行う。 何回も忘れる生徒への粘り強い指導を行う。	B		
	4 保健の授業に於いて生徒を積極的に授業に参加させる工夫	発問を工夫して、多くの生徒が参加させる授業を行う。 グループ学習も取り入れるように工夫する。	A		

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価		次年度への主な課題
英語科	<p>1 基礎基本の確立</p> <p>(1) 動詞の変形(原形⇒三人称⇒過去形⇒過去分詞形)を言え、書くことができる。</p> <p>(2) 肯定文を否定文・疑問文に変えることができる。</p>	<p>(1) Harukaze English Iにある動詞の活用表にある動詞を覚える。実際に書かせることで定着を図る。</p> <p>(2) 授業内で小テストを実施し、英語の最も基本である否定文・疑問文の作り方を定着させる。</p>	B	B	<p>1 活用表を一度に提示するのではなく、学習範囲毎に数を絞って提示することで理解度が高まるようにする。否定文・疑問文はシートを使えばできる生徒は増えたが、何も見ないでできるようにはならなかった。反復することで定着できるようにする。</p>
	<p>2 発信型授業の展開</p> <p>(1) 日本語を英語に翻訳することができる。</p> <p>(2) 使用している教科書を読むことができる。</p>	<p>(1) 単語レベルから英語にする作業を行い、短い文章を作れるようにする。</p> <p>(2) 授業内での音読を習慣化する。また、音読テストを授業内で実施する。</p>	C		<p>2 単語テストを定期的に行うことで、日本語を英語にする習慣は身につけることはできた。しかし、単語と単語を結びつけ文章を作るところまでは達していない。短い文章を自分で考え作れるよう、今後工夫をする。音読は、聞いて繰り返すことはできるが、見て読むことができない生徒が多い。英語をみて読めるよう指導していく。</p>
	<p>3 学び続ける教員(継続)</p> <p>(1) センター試験筆記190点、リスニング45点(9割以上)を目標とする。また、国立・私立大学の過去問を解き、普段の授業に生かす。</p> <p>(2) TOEIC試験を一度以上受験し、英語教員の目安となっている730点以上を目標とする。</p>	<p>(1) 日々の教科指導の中で、個々のレベルアップを図り、偏った学習に陥らないようにする。過去問を常に解き、傾向を把握する。</p> <p>(2) TOEIC対策を、個人の学習に組み込む。</p> <p>(3) 日々、研究授業を意識した授業を行う。</p>	B		<p>3 日々工夫を重ねて授業を行っていた。ALTとも話を重ね、事前に準備する姿勢も見られた。TOEIC受験者は、2名であったが、英検などを活用し個々にスキルアップを目指した。研究</p>

(3) 研究授業を一回以上実施する			授業は、3名おこなった。内容も良かった。
-------------------	--	--	----------------------

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価		次年度への主な課題
情報科	1 パソコン室のシステムの理解（生徒・教員ともに）と安定的な運用	1 納入業者、ソフトウェア業者との連携し、システムを理解する。また、外部情報科教員向けの研修会や、様々な出版社が出している教材から利用可能なものを学び、指導の幅を広げる。	B	A	<p>情報モラルに関して、スマートフォンアプリを介した個人情報の流失や盗聴、監視などについても具体例を示し、被害に会わないための知識を身につけさせていきたい。</p> <p>SNS の利用法について「できること」「できないこと」が常に変化しているため、教科書や資料集のみでの指導にならないよう日々の研修を怠らないようにする。</p>
	2 高校卒業後に困らないような基本的な技術の習得	2 Word や Excel など代表的なソフトの活用を習得させる。	A		
	3 情報モラルの向上	3 著作権、肖像権、個人情報など気が付かないところで法を犯すことがないように SNS やスマホの利用など身近な例を用いて指導する。	A		

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価		次年度への主な課題
芸術科 (音楽・ 美術・ 書道)	1 生徒一人一人の個性に応じた感性を引き出し、伸長する。	<ul style="list-style-type: none"> ○芸術的表現力（演奏・表現・書写）や技術の向上を図る。 ○作品鑑賞を通して、自己や他者の価値意識を育てる。 ○指導者の考えを強調しすぎないようにする。 	A	A	2 多彩な伝統芸能の一端を数多く触れる機会を設ける。そのために、教員の知識の幅を広げられるようにする。
	2 我が国の伝統芸能の一端を理解し、尊重する態度を養う。	<ul style="list-style-type: none"> ○古典芸術作品に触れる機会を多くする。 ○伝統芸能（邦楽・雅楽，工芸，書道）の技法や歴史を理解する。 ○日本独自の芸術文化をアピールする材料を探り，情報発信できるようにする。 			